

岐阜県河川課からのお願い

川が危険であることを知ってください

毎年、全国の海や川で水難事故が起きています。

もし、あなたが水難事故で亡くなったら、保護者の方やご友人たちの悲しみはいったいどれほどでしょうか。インターネットやSNSなどの偏った情報に踊らされることなく、正しい知識を身につけ、慎重に行動をしましょう。

川の怖さを知ろう

川の怖さその1 川は急に深くなっている

- ・川の深さは、歩けるほどの浅さから、急に、足がつかないほどの深さに変わります。川の深さの変化は目で見てわかりません。川で遊んでいるうちに、深み（急に深くなっているところ）にはまって溺れることがあります。

川の怖さその2 川は急に流れが速くなる

- ・川の流れは、端の方は緩くても、流れの中心（流心）に近づくと急に速くなります。川を泳いで横断しようとして、途中で流されて溺れることがあります。

川の怖さその3 川の水は冷たい

- ・川の水は、地下水が含まれるため、また、常に流れているため、真夏でも冷たいです。川で泳ぐと、足をつって溺れたり、体力を奪われ力尽きて溺れたりすることがあります。

川の怖さその4 川の流れは複雑

- ・川の流れは複雑で、渦や下に引き込む流れが生じています。川で泳ぐと、そうした流れに巻き込まれて溺れることがあります。

川の怖さその5 川底の岩や流木

- ・川底には、岩や流木があります。水の表面に頭が出ていない大きな岩（「隠れ岩」）もあります。それらに手足が引っかかって溺れることがあります。

川の怖さその6 堰（せき）などの人工構造物

- ・川には、コンクリートなどでできた様々な人工構造物があります。それらの近くは水の流れでえぐられ、複雑な流れが生じています。人工構造物に近づくと、吸い込まれたり、再循環流（リサーキュレーション）と呼ばれる縦回転の渦に巻き込まれたりして溺れることがあります。

水難事故に遭わないために

対策その1 川では、絶対に泳がないほうが安全です。

- ・川は非常に危険な場所であり、気軽に泳いで遊ぶような場所ではありません。「私は川では絶対に泳がない」と決めている人もたくさんいます。
- ・橋や岩から川に飛び込まないでください。
- ・堰などの人工構造物には近づかないでください。

対策その2 水辺に近づくときはライフジャケットを必ず着用する。

- ・釣りや川遊びで水辺に近づく場合は、ライフジャケットを必ず着用してください。万一深みにはまっても、命の助かる可能性が高くなります。

高校卒業後

- ・県内で過去に起きた水難事故遭遇者を年齢別にみると、18歳が最も多くなっています。高校卒業後、皆様はそれぞれ進学や就職をされ、1年目の夏、友人たちと河原でバーベキューをすることもあるかもしれません。そのとき、うかつに川に近づいてしまうと、、、
- ・高校を卒業されても、「川は急に深くなるから危ない」ということと、「水辺に近づくときはライフジャケットを必ず着用する」ということは、生涯、忘れないで、覚えていてください。この知識が、あなたと、あなたの未来の家族と子どもたちの命をきつと守ってくれると思います。

もっと詳しく知りたい方は

- ・水難事故や川の危険性についてもっと詳しく知りたい方は、

○岐阜県河川課ホームページ
「水難事故に関するQ&A」



○岐阜県河川課公式ツイッター
「岐阜県河川課」



をぜひご覧ください。